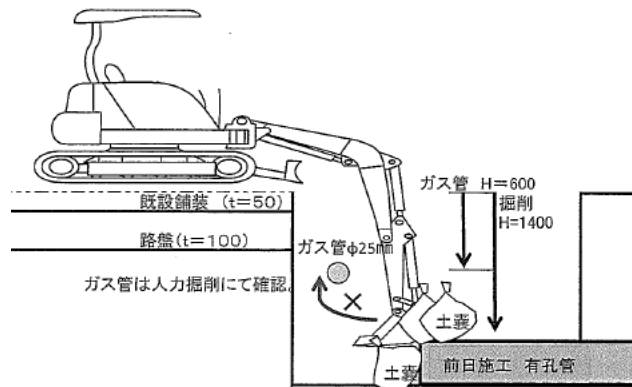


公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|-------------------------|-------|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和元年 5月14日(火曜日) 10時 20分 | | | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 埋設物等損傷 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | ガス供給管φ25mm及びロケーティングワイヤーの破断 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | - |
| 工事概要 | 排水管設置, 道路舗装工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 前日作業で埋設した有孔管の保護のために設置していた土嚢・単粒度砕石を撤去する際、バックホウのバケットを誤ってφ25mmガス供給管供給管に接触させガス供給管及びロケーティングワイヤーを破断した。 | | | | | | |
| 事故原因 | φ25mmガス供給管及びロケーティングワイヤーについては、西部ガス職員立会のもと、人力掘削で掘り出し露出させていた。そして前日作業で埋設した有孔管の保護のために設置していた土嚢・単粒度砕石を撤去する際、バックホウのバケットを誤って供給管に接触させてしまったもの。バックホウの操作ミスが原因。 | | | | | | |
| 改善策 | <p>【作業手順の改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋設物付近, 民家の壁付近を重機で掘削, 旋回するときには合図者をつけて作業を行う。 ・作業時に生じる変化などは, 直ちに全員で確認する。 ・作業着手前に作業工程, 順序を再度全員で確認する。 <p>【KY活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KY活動において, 当日の作業内容の確認を徹底する。 ・埋設物の現地マーキングの他, 埋設物(ガス・水道・下水)の図面を作業員全員と確認し情報の共有を徹底する。 ・不安全行動を決して行わない。周囲確認を徹底して作業を行う。 | | | | | | |

事故状況図

ガス管破断状況



改善状況図

再発防止に向けたKY活動



合図者配置



公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|-------------------------|----|---|---------|-----|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和 元年 5月 9日(木曜日) 8時 00分 | | | 工事関係者区分 | 元請け |
| 事故区分 | その他 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 公園の車止め用石柱ポットに傷痕跡をつけた | | 事故レベル | I | | 休業見込日数 | — |
| 工事概要 | 公園等除草業務 | | | | | | |
| 事故概要 | 作業機材を作業車両により公園内に搬入しようとした際、誤ってハンドルを早くきりすぎ、公園の車止め用石柱ポットに接触させた。 | | | | | | |
| 事故原因 | 車両侵入の際の安全確認を怠ったことによる。 | | | | | | |
| 改善策 | 事故後、同種作業の従事者に対して緊急全体会議を行い、事故の情報共有と一層の注意喚起を促し、現場状況に応じ誘導員を配置することや、運転者には死角となると想定される範囲を入念に確認したうえで進入することを徹底させることとした。 | | | | | | |

事故状況図



改善状況図

(現場作業員への安全確認ミーティング)



公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|------------------------|-------|----|---------|-----|
| 事故分類 | 労働災害 | 発生日時 | 令和 元年 5月22日(水曜日) 3時25分 | | | 工事関係者区分 | 元請け |
| 事故区分 | その他 | 性別 | 男性 | 年齢 | 46 | 業種区分 | 設備 |
| 被災程度 | 右眼角膜酸化学熱傷 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | 不休 |
| 工事概要 | 焼却炉設備, ボイラー・タービン等各設備の運転操作と保守点検整備 | | | | | | |
| 事故概要 | 薬品補充作業中に抱えていたポリ缶が落下し, 落下した衝撃でポリ缶内の薬品が飛び跳ねて, 飛沫が右眼に入り受傷した。 | | | | | | |
| 事故原因 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護具(ゴーグル)が作業中に曇ったため, 外して作業を行った。 ・ポリ缶(約20kg)を持ち抱えて作業を行った。 | | | | | | |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護具着用の徹底や保護具の使用に問題が発生した際には作業中断し, 手入れ後に作業再開するように指導を行った。 ・ハンディポンプを使用し薬品の補充を行い, ポリ缶を持ち抱えずに作業を行うように手順書を作成した。併せて類似作業についても手順書を作成し, 同様の対応を行った。 | | | | | | |

事故状況図



タンクの入口にポリ缶の口を当てて補充中に、ポリ缶の口がずれたはずみで、ポリ缶から手が離れ、ポリ缶が床に落下。

改善状況図

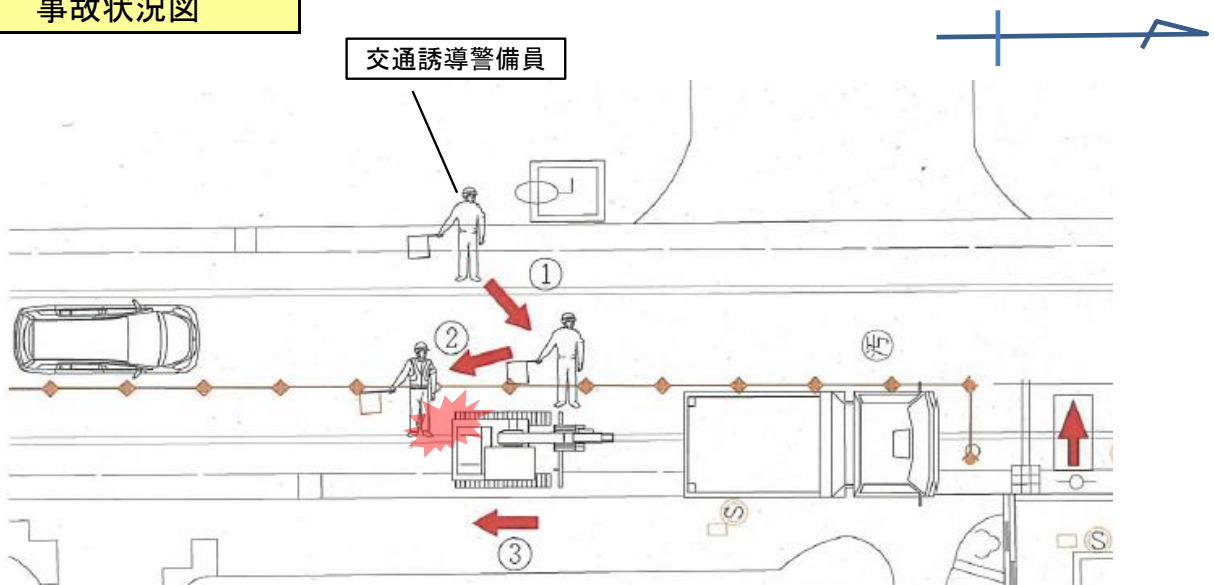


ポリ缶を持ち抱えずに作業できるようにした。

公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|--|------|-----------------------|-------|----|---------|------|
| 事故分類 | 労働災害 | 発生日時 | 令和元年 5月29日(水曜日)11時20分 | | | 工事関係者区分 | 二次下請 |
| 事故区分 | その他 | 性別 | 男性 | 年齢 | 56 | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 右脛の骨折(全治3カ月) | | | 事故レベル | Ⅱ | 休業見込日数 | 3カ月 |
| 工事概要 | 老朽化した配水管の取替え工事(配水管布設替え) | | | | | | |
| 事故概要 | バックホウによる舗装剥ぎ取り・掘削作業を行っていたところ、後進したバックホウに交通誘導警備員(被災者)が右脛を轢かれ受傷した。 | | | | | | |
| 事故原因 | 現場は道路西側を占用して片側交互通行により交通処理しており、交通誘導警備員を占用帯の北側、南側及び中央部の3箇所に配置していたところであるが、一般車両を誘導した際に、中央部に配置されていた誘導員(被災者)が通過しやすいよう配慮して本来立ち入るべきでない占用帯内に入り、被災者に気づかないまま後進したバックホウに接触して受傷したもの。 | | | | | | |
| 改善策 | 交通誘導警備員はカラーコーンバーで仕切られた工事区間内の立ち入りを禁止し、やむを得ず立ち入る場合は監視員を配置し、立ち入る者はオペレーター及び監視員に立ち入ることを確実に伝える。また、工事区間付近を一般車両等第三者が通行する際に建設機械が接触する恐れがある場合は、交通誘導警備員又は監視員がオペレーターに合図するとともに、合図の受け渡しが確実にできるようなあらかじめ確認方法を決めておく。 | | | | | | |

事故状況図



改善状況図

